

注3

大学番号：私立070

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

杏林大学 保健学部 臨床心理学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人杏林学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 井の頭事務部 教務課

職名・氏名 ヤマ ウチ ヨシ マサ
山 内 善 正

電話番号 0422-47-8000

（夜間） 0422-47-8000

F A X 0422-47-8054

e-mail yamauchi@ks.kyorin-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健学部

<臨床心理学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 杏林学園

(2) 大学名

杏林大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1
 (〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(マツダ ヒロハル) 松田博青 (昭和63年 2月)		
学長	(アトミ ユカ) 跡見裕 (平成22年 4月)	(オガシ ジュンイチ) 大瀧 純一 (平成30年 4月)	任期満了のため(30)
学部長	(オガシ ジュンイチ) 大瀧 純一 (平成18年 4月)	(オガシ マヤストモ) (カミヤ シゲル) 岡島 康友 神谷 茂 (令和 2年 4月) (平成30年 4月)	任期満了のため変更 令和2年4月(02) 任期満了のため(30)
学科長等		(フルカワ ケイコ) 古川 佳子 (平成30年 4月)	杏林大学役職規程第17条に基づき学科長を選出したため。 (30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健学部 臨床心理学科 学士(臨床心理学)	文学関係 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	4年	80人	0人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	-	-	-	-	80人	0人	80人	0人	80人	0人	0.95倍	-	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[1]	[1]	[1]	[1]	[1]	[1]			
志願者数	-	-	-	-	138	-	271	-	558	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]			
受験者数	-	-	-	-	132	-	262	-	539	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]			
合格者数	-	-	-	-	120	-	221	-	207	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]			
B 入学者数	-	-	-	-	47	-	96	-	86	-			
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]	[0]	[-]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.58	-	1.20	-	1.07	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	47 [0] (-)	- [-] (-)	101 [0] (5)	- [-] (-)	95 [0] (9)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	39 [0] (0)	- [-] (-)	88 [0] (4)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	36 [0] (0)	- [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	47 [0] (-)	140 [0] (5)					219 [0] (13)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
平成30年度	47 人	3 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	3 人	0 人	進路変更(2名) 病気療養(1名)
令和元年度	140 人	7 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	2 人	0 人	進路変更(1名) 病気療養(1名)
			令和元年度	5 人	0 人	進路変更(4名) 病気療養(1名)
令和2年度	219 人	0 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
合計		10 人		10 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{47} = \boxed{6.38} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{7}{140} = \boxed{5} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{219} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健学部 臨床心理学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文・社会学系	哲学	1後	2								兼1
	生命倫理学	1後	2								兼1
	日本国憲法	1後	2								兼1
	法学	1前	2								兼1
	社会学	1前・後	2								兼1
	芸術	1前・後	2								兼1
	職業適性論	2後	2								兼10
	日本語学概論	1前	2								兼1
	ことばと社会	2前	2					1			兼1
	地域と大学	1前	1								兼9
小計(10科目)	-										
自然科学系	情報処理論	2前	2								兼1
	基礎生物	1前	1								兼1
	基礎化学	1前	1								兼1
	基礎数学	1前	1								兼1
小計(4科目)	-										
言語系	日本語表現法	1後	2								兼1
	英語I	1前	2								兼1
	英語II	1後	2								兼1
	英語III	2前	2								兼1
	英語IV	2後	2								兼1
	医学英語	2前	2								兼1
	英会話	2前・後	2								兼1
小計(7科目)	-										
基礎医学系	公衆衛生学	1前	1								兼1
	医学概論	1前	1								兼1
	人体の構造	1前	2			1					
	人体の機能	1後	2			1					
	疾病学	1後	2			1					
	病態病理学	1後	1			1					
	精神医学概論	2前	2			1					
	精神医学各論	2後	2			1					
	緩和医療学(演習を含む)	3前	2			1					
	救急医療	2前	1								兼1
	救命救助法	1前	1								兼1
小計(11科目)	-										
看護学・精神科リハビリテーション学系	看護学	1後	2					1			
	精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2前	2					1			兼1
	精神看護学演習(精神科リハビリテーション学を含む)	2後	2					1			兼1
小計(3科目)	-										

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文・社会学系	哲学	1前・後	2								兼1
	生命倫理学	1前	2								兼3
	日本国憲法	1前	2								兼1
	法学	1後	2								兼1
	社会学	1前・後	2								兼1
	芸術	1前・後	2								兼1
	職業適性論	1後	2								兼11
	日本語学概論	1前・後	2								兼1
	ことばと社会	1前・後	2								兼1
	地域と大学	1前	1							1	兼13
小計(10科目)	-										
自然科学系	情報処理論	2前	2								兼1
	基礎生物学	1前	1								兼1
	基礎化学	1前	1								兼1
	基礎数学	1前	1								兼1
小計(4科目)	-										
言語系	日本語表現法	1前・後	2								兼1
	英語I	1前	2								兼1
	英語II	1後	2								兼1
	英語III	2前	2								兼1
	英語IV	2後	2								兼1
	医学英語	2前	2								兼1
	英会話	2前・後	2								兼2
小計(7科目)	-										
基礎医学系	公衆衛生学	1前	1								兼3
	医学概論	1前	1								兼1
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能I)	1前	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能II)	1後	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(疾病)	1後	2			1					
	病態病理学	1後	1			1					
	精神疾患とその治療I	2前	2			1					
	精神疾患とその治療II	2後	2			1					
	緩和医療学(演習を含む)	3前	2			1					
	救急医療	2前	1								兼1
	救命救助法	1後	1								兼1
小計(11科目)	-										
看護学・精神科リハビリテーション学系	看護学	1後	2								兼1
	精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2前	2					1			兼1
	精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	2後	2					1			兼2
小計(3科目)	-										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
心理学基礎分野	心理学概論	1前	2			1							
	心理学研究法	1前	2			1							
	心理学統計法	1後	2					1					
	心理学基礎実験Ⅰ	2前	2			4		4					
	心理学基礎実験Ⅱ	2後	2			4		4					
	心理検査演習	3前	2			3		3					
	心理面接演習	3前	2			3		3					
	小計(7科目)	-											
	基礎心理学関連	神経心理学	2後	2					1				
		認知心理学	1後	2			1						
知覚心理学		1前	2					1					
生理心理学		2前	2					1					
小計(4科目)		-											
発達・教育心理学関連		発達心理学	1後	2			1						
		教育心理学	1前	2	2		1						
		乳幼児心理学	2前	2			1						
		学校心理学	3後	2					1				
		小計(4科目)	-										
	社会心理学関連	社会心理学	2前	2			1						
		集団心理学	3後	2					1				
		青年心理学	3前	2					1				
		家族心理学	3前	2			1						
		小計(4科目)	-										
臨床心理学関連		臨床心理学概論	1前	2					1				
		発達臨床心理学	2後	2			1						
		カウンセリング	2前	2					1				
		心理療法	2後	2			1						
		人格心理学	3前	2	2				1				
	心理検査法	2後	2			1							
	認知行動療法	3前	2			1							
	医療心理学	1後	2			1							
	障害者心理学	3後	2					1					
	小計(9科目)	-											
隣接領域	社会福祉学	2前	2			1						兼1	
	学校教育学	1後	2									兼1	
	児童福祉学	2後	2					1					
	高齢者福祉学	2後	2									兼1	
	高齢保健学	2後	2									兼1	
	医療福祉学	2前	2									兼1	
	公的扶助学	3前	2									兼1	
	障害者福祉学	3前	2									兼1	
	社会福祉政策学	3前	2									兼1	
	小計(9科目)	-											
心理実践実習分野	心理実践職能学	3前	2					1					
	心理実践基礎実習Ⅰ	1後	1			4		4				兼1	
	心理実践基礎実習Ⅱ	2後	1			4		4				兼1	
	心理実践実習Ⅰ	3後	3			4		4				兼1	
	心理実践実習Ⅱ	4後	2			4		4				兼1	
小計(5科目)	-												
総合領域	臨床心理学総合講義	4前	2			1							
	臨床心理学特別講義Ⅰ	1前	2	2		1							
	臨床心理学特別講義Ⅱ	1後	2									兼1	
	特別演習Ⅰ	1前	1					3				兼1	
	特別演習Ⅱ	1後	1			1		3				兼1	
	インターンシップ	4通	2					1					
	ボランティア活動	4通	2					1					
	基礎ゼミ	3後	2			5		5					
	卒業研究	4通	4			5		5					
	小計(9科目)	-											
合計(86科目)	-												
卒業要件及び履修方法													
<p>必修科目80単位、人文・社会学系の選択科目から8単位以上、言語系の選択科目から4単位以上、心理学発展分野発達・教育心理学関連の選択科目から4単位以上、社会・青年心理学関連の選択科目から6単位以上、臨床心理学関連の選択科目から8単位以上、隣接領域の選択科目から12単位以上、心理実践実習Ⅱ、インターンシップ、ボランティア活動の中から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))</p>													

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
心理学基礎科目系	心理学概論	1前	2			1							
	心理学研究法	1前	2			1							
	心理学統計法	1後	2					1		1			
	心理学実験Ⅰ	2前	2							3	2		
	心理学実験Ⅱ	2後	2							3	2		
	心理演習	3前	2					3		2			
	小計(6科目)	-										兼1	
	心理学発展科目系	臨床心理学概論	1前	2			1			1			
		知覚・認知心理学入門	1前	2						4	2		
		知覚・認知心理学学習・言語心理学	1後	2					1		1		
感情・人格心理学		2前	2					1				兼1	
神経・生理心理学		3前	2								1		
社会・集団・家族心理学Ⅰ		2後	2					1					
社会・集団・家族心理学Ⅱ		2前	2					1		1			
発達心理学		3前	2					1		1			
障害者・障害児心理学		1後	2						1	1			
心理的アセスメント		3前	2					1					
心理学的支援法	2前	2					1	1					
健康・医療心理学	2後	2					1				兼1		
福祉心理学	1後	2						1	2				
教育・学校心理学	2前	2					1	1	1		兼1		
司法・犯罪心理学	2後	2					1				兼1		
産業・組織心理学	3前	2						1			兼1		
認知行動療法	3前	2		2									
発達臨床心理学	2後	2		2					1				
乳幼児・児童心理学	2前	2		2			1						
思春期・青年期心理学	3前	2		2							兼1		
小計(21科目)	-												
隣接領域	社会福祉学	2後	2			1						兼3	
	学校教育学	1後	2									兼1	
	児童福祉学	2後	2									兼2	
	老人福祉学	2後	2									兼1	
	高齢保健学	2後	2									兼1	
	医療福祉学	2前	2									兼1	
	公的扶助学	3前	2									兼1	
	障害者福祉学	3前	2									兼1	
	社会福祉政策学	3前	2									兼1	
	小計(9科目)	-											
心理実習系	公認心理師の職責	3前	2						1				
	関係行政論	4前	2						1				
	心理基礎実習	1後	1				5	3	3	2			
	心理実習Ⅰ	2前	1				5	3	4	2			
	心理実習Ⅱ	3前	3				3		2			兼1	
小計(5科目)	-												
総合領域	総合実習	4後	2			5		3					
	臨床心理学特別講義Ⅰ	1前	2					1					
	臨床心理学特別講義Ⅱ	1後	2			1							
	心理特別演習Ⅰ	1前	1			5	3	4	2				
	心理特別演習Ⅱ	1後	1			5	3	3	2				
	インターンシップ	4通	2						1				
	ボランティア活動	4通	2						1				
	基礎ゼミ	3後	2			6	3	4	2				
	卒業研究	4通	4			6		4					
小計(9科目)	-												
合計(85科目)	-												
卒業要件及び履修方法													
<p>必修科目91単位、人文・社会学系の必修科目を含めて10単位以上、言語系の必修科目を含めて12単位以上、隣接領域の選択科目から14単位以上、総合実習、インターンシップ、ボランティア活動の中から2単位以上、総合領域を除く選択科目から5単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))</p>													

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
人文・社会学系	哲学	1前・後		2							兼1
	生命倫理学	1前		2							兼3
	日本国憲法	1後		2							兼1
	法学	1前		2							兼1
	社会学	1後		2							兼1
	芸術	1前・後		2							兼1
	職業適性論	1後		2							兼10
	日本語学概論	1前		2							兼1
	ことばと社会	1後		2							兼1
	地域と大学	1前	1				1				兼12
小計(10科目)	-										
自然科学系	情報処理論	2前	2								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	基礎化学	1前		1							兼1
	基礎数学	1前		1							兼1
小計(4科目)	-										
言語系	日本語表現法	1前・後	2								兼1
	英語I	1前	2								兼1
	英語II	1後	2								兼1
	英語III	2前	2								兼1
	英語IV	2後	2								兼1
	医学英語	2前	2								兼1
	英会話	2前・後	2								兼1
小計(7科目)	-										
基礎医学系	公衆衛生学	1前	1								兼3
	医学概論	1前	1								兼1
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能I)	1前	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能II)	1後	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(疾病)	1後	2			1					
	病態病理学	1後	1			1					
	精神疾患とその治療I	2前	2			1					
	精神疾患とその治療II	2後	2			1					
	緩和医療学(演習を含む)	3前	2			1					
	救急医療	2前	1								兼1
	救命救助法	1前	1								兼1
小計(11科目)	-										
看護学・精神科リハビリテーション学系	看護学	1後	2								兼1
	精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2前	2			1					兼1
	精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	2後	2			1					兼2
	小計(3科目)	-									

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
人文・社会学系	哲学	1前・後		2							兼1
	生命倫理学	1前		2							兼3
	日本国憲法	1後		2							兼1
	法学	1後		2							兼1
	社会学	1前・後		2							兼1
	芸術	1前・後		2							兼1
	職業適性論	1後		2							兼11
	日本語学概論	1前・後		2							兼1
	ことばと社会	1前・後		2							兼1
	地域と大学	1前	1				1				兼12
小計(10科目)	-										
自然科学系	情報処理論	2前	2								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	基礎化学	1前		1							兼1
	基礎数学	1前		1							兼1
小計(4科目)	-										
言語系	日本語表現法	1前・後	2								兼1
	英語I	1前	2								兼1
	英語II	1後	2								兼1
	英語III	2前	2								兼1
	英語IV	2後	2								兼1
	医学英語	2前	2								兼1
	英会話	2前・後	2								兼2
小計(7科目)	-										
基礎医学系	公衆衛生学	1前	1								兼3
	医学概論	1前	1								兼1
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能I)	1前	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能II)	1後	2			1					
	人体の構造と機能及び疾病(疾病)	1後	2			1					
	病態病理学	1後	1			1					
	精神疾患とその治療I	2前	2			1					
	精神疾患とその治療II	2後	2			1					
	緩和医療学(演習を含む)	3前	2			1					
	救急医療	2前	1								兼1
	救命救助法	1前	1								兼1
小計(11科目)	-										
看護学・精神科リハビリテーション学系	看護学	1後	2								兼1
	精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)	2前	2			1					兼1
	精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	2後	2			1					兼2
	小計(3科目)	-									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理学基礎科目系	心理学概論	1前	2			1						
	心理学研究法	1前	2			1						
	心理学統計法	1後	2					1				
	心理学実験Ⅰ	2前	2			1		3				
	心理学実験Ⅱ	2後	2			1		3				
	心理演習	3前	2			3		2				兼1
小計(6科目)	-											
心理学発展科目系	臨床心理学概論	1前	2			1		1				
	知覚・認知心理学入門	1前	2			1		4				
	知覚・認知心理学	1後	2					1				
	学習・言語心理学	2前	2			1						
	感情・人格心理学	3前	2					1				
	神経・生理心理学	2後	2					1				
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2前	2			1		1				
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	3前	2			1		1				
	発達心理学	1後	2			1						
	障害者・障害児心理学	3前	2					1				
	心理的アセスメント	2前	2			1						
	心理学的支援法	2後	2			1		1				
	健康・医療心理学	1後	2			1						
	福祉心理学	2前	2			1		1				
	教育・学校心理学	2後	2			1		1				
	司法・犯罪心理学	3前	2					1				
	産業・組織心理学	3前	2			1						
	認知行動療法	3前		2			1					
	発達臨床心理学	2後		2				1				
乳幼児・児童心理学	2前		2		1							
思春期・青年期心理学	3前		2				1					
小計(21科目)	-											
隣接領域	社会福祉学	2後		2								兼1
	学校教育学	1後		2								兼1
	児童福祉学	2後		2								兼1
	老人福祉学	2後		2								兼1
	高齢保健学	2後		2								兼1
	医療福祉学	2前		2								兼1
	公的扶助学	3前		2								兼1
	障害者福祉学	3前		2								兼1
	社会福祉政策学	3前		2								兼1
小計(9科目)	-											
心理実習系	公認心理師の職責	3前	2					1				
	関係行政論	4前	2					1				
	心理基礎実習	1後	1			5	1	3				
	心理実習Ⅰ	2後	1			3		2				兼1
	心理実習Ⅱ	3後	3			3		2				兼1
小計(5科目)	-											
総合領域	総合実習	4後		2		5		3				
	臨床心理学特別講義Ⅰ	1前		2		1						
	臨床心理学特別講義Ⅱ	1後		2		1						
	心理特別演習Ⅰ	1前		1		4		3				
	心理特別演習Ⅱ	1後		1		4		3				
	インターンシップ	4通		2				1				
	ボランティア活動	4通		2				1				
	基礎ゼミ	3後		2		7		4				
	卒業研究	4通		4		6		4				
小計(9科目)	-											
合計(85科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目91単位、人文・社会学系の必修科目を含めて10単位以上、言語系の必修科目を含めて12単位以上、隣接領域の選択科目から14単位以上、総合実習、インターンシップ、ボランティア活動の中から2単位以上、総合領域を除く選択科目から5単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理学基礎科目系	心理学概論	1前	2			1						
	心理学研究法	1前	2			1						
	心理学統計法	1後	2					1				
	心理学実験Ⅰ	2前	2			1		3				
	心理学実験Ⅱ	2後	2			1		3				
	心理演習	3前	2			3		2				兼1
小計(6科目)	-											
心理学発展科目系	臨床心理学概論	1前	2			1		1				
	知覚・認知心理学入門	1前	2			1		4				
	知覚・認知心理学	1後	2					1				
	学習・言語心理学	2前	2			1						
	感情・人格心理学	3前	2					1				
	神経・生理心理学	2後	2					1				
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2前	2			1		1				
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	3前	2			1		1				
	発達心理学	1後	2			1						
	障害者・障害児心理学	3前	2					1				
	心理的アセスメント	2前	2			1						
	心理学的支援法	2後	2			1		1				
	健康・医療心理学	1後	2			1						
	福祉心理学	2前	2			1		2				
	教育・学校心理学	2後	2			1		1				兼1
	司法・犯罪心理学	3前	2					1				
	産業・組織心理学	3前	2			1						
	認知行動療法	3前		2			1					
	発達臨床心理学	2後		2				1				
乳幼児・児童心理学	2前		2		1							
思春期・青年期心理学	3前		2				1					
小計(21科目)	-											
隣接領域	社会福祉学	2後		2				1				兼3
	学校教育学	1後		2								兼1
	児童福祉学	2後		2								兼2
	老人福祉学	2後		2								兼1
	高齢保健学	2後		2								兼1
	医療福祉学	2前		2								兼1
	公的扶助学	3前		2								兼1
	障害者福祉学	3前		2								兼1
	社会福祉政策学	3前		2								兼1
小計(9科目)	-											
心理実習系	公認心理師の職責	3前	2					1				
	関係行政論	4前	2					1				
	心理基礎実習	1後	1			5	2	3				
	心理実習Ⅰ	2前	1			3	2	3				兼1
	心理実習Ⅱ	3後	3			3		2				兼1
小計(5科目)	-											
総合領域	総合実習	4後		2		5		3				
	臨床心理学特別講義Ⅰ	1前		2		1						
	臨床心理学特別講義Ⅱ	1後		2		1						
	心理特別演習Ⅰ	1前		1		4		3				
	心理特別演習Ⅱ	1後		1		4		3				
	インターンシップ	4通		2				1				
	ボランティア活動	4通		2				1				
	基礎ゼミ	3後		2		7		4				
	卒業研究	4通		4		6		4				
小計(9科目)	-											
合計(85科目)	-											
卒業要件及び履修方法												
必修科目91単位、人文・社会学系の必修科目を含めて10単位以上、言語系の必修科目を含めて12単位以上、隣接領域の選択科目から14単位以上、総合実習、インターンシップ、ボランティア活動の中から2単位以上、総合領域を除く選択科目から5単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:49単位(年間))												

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・人文・社会学系の小計に誤りがあったため、小計(9科目)から小計(10科目)に変更。
- ・他学科においては、1年前期にも開講しており、開講数を増やし、少人数教育を図るため、「哲学」の開講学期を1年後期から1年前後期に変更。
- ・科目担当者変更により、開講曜日時限の調整が困難なため、「生命倫理学」の配当年次を1年後期から1年前期に変更し、授業内容に応じて兼任教員数を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・科目担当者変更により、開講曜日時限の調整が困難なため、「社会学」の配当年次を1年前・後期から1年後期に変更。
- ・他学科との合同開講で、他学科の多くが1年次に開講しており、配当学年を1年次としても教育効果が見込めると判断したため、「職業適性論」の配当年次を2年後期から1年後期に変更。
- ・科目担当者変更により、開講曜日時限の調整が困難となり、また他学科との合同開講で、他学科の多くが1年次に開講しており、配当学年を1年次としても教育効果が見込めると判断したため、「ことばと社会」の配当年次を2年前期から1年後期に変更。
- ・他学部との合同開講で履修者数が多く、またオムニバス形式のため、「地域と大学」の兼任教員を「兼9」から「兼12」に変更。また、講師就任辞退のため、専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・他学科と合同開講で、科目名称を同一にするため、科目名称を「基礎生物」から「基礎生物学」に変更。
- ・少人数教育を図るため、「日本語表現法」の配当年次を1年後期から、1年前・後期に変更。
- ・授業内容に応じて、「公衆衛生学」の兼任・兼任を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「人体の構造」から「人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能I)」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「人体の機能」から「人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能II)」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「疾病学」から「人体の構造と機能及び疾病(疾病)」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「精神医学概論」から「精神疾患とその治療I」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「精神医学各論」から「精神疾患とその治療II」に変更。
- ・講師就任辞退により、「看護学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・教授就任により「精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、講師就任辞退により「講師1」から「講師0」、兼任・兼任を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・看護学・精神科リハビリテーション学系の小計に誤りがあったため、小計(11科目)から小計(3科目)に変更。
- ・授業内容を明確にした科目名称とするため、授業科目の名称を「精神看護学演習(精神科リハビリテーション学を含む)」から「精神看護学・精神科リハビリテーション学演習」に変更。また、教授就任により専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、講師就任辞退により「講師1」から「講師0」、兼任・兼任を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・科目分野を「心理学基礎分野」から「心理学基礎科目系」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理学基礎実験I」から「心理学実験I」とし、専任教員等の配置を「教授4」から「教授1」、「講師4」から「講師3」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理学基礎実験II」から「心理学実験II」とし、専任教員等の配置を「教授4」から「教授1」、「講師4」から「講師3」に変更。
- ・「心理検査演習」と「心理面接演習」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理検査演習」、「心理面接演習」から「心理演習」に変更。また、専任教員等の配置を「講師3」から「講師2」、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・科目区分を「心理学発展分野」、「基礎心理学関連」、「発達・教育心理学関連」、「社会・青年心理学関連」、「臨床心理学関連」から「心理学発展科目系」、「隣接領域」に変更。
- ・授業内容に応じて、「臨床心理学概論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・「認知心理学」、「知覚心理学」の授業内容を統合し、授業科目の名称を「知覚・認知心理学入門(必修2単位)」に変更。また、配当年次を1年前期とし、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師4」とした。
- ・「認知心理学」、「知覚心理学」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「知覚・認知心理学(必修2単位)」に変更。また、配当年次を1年後期とし、専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」とした。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、「学習・言語心理学(必修2単位)」を追加、配当年次を2年前期とし、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」とした。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「人格心理学」から「感情・人格心理学(必修2単位)」に変更。
- ・「神経心理学」、「生理心理学」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「神経・生理心理学(必修2単位)」とし、配当年次を2年後期に変更。
- ・「社会心理学」、「集団心理学」、「家族心理学」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「社会・集団・家族心理学I(必修2単位)」とし、配当年次を2年前期に変更。また、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「社会心理学」、「集団心理学」、「家族心理学」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「社会・集団・家族心理学II(必修2単位)」とし、配当年次を3年前期に変更。また、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「障害者心理学」から「障害者・障害児心理学(必修2単位)」とし、配当年次を3年前期に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理検査法」から「心理的アセスメント(必修2単位)」とし、配当年次を2年後期から2年前期に変更。
- ・「カウンセリング」、「心理療法」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理学的支援法(必修2単位)」とし、配当年次を2年後期に変更。また、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「医療心理学」から「健康・医療心理学(必修2単位)」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、「福祉心理学(必修2単位)」を追加、2年前期配当とし、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「教育心理学」、「学校心理学」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「教育・学校心理学(必修2単位)」とし、配当年次を2年後期に変更。また、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、「講師0」から「講師1」に変更。

- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、「司法・犯罪心理学」(必修2単位)を追加、配当年次を3年前期とし、専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」とした。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、「産業・組織心理学」(必修2単位)を追加、配当年次を3年前期とし、専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」とした。
- ・授業内容に応じて、授業科目の名称を「乳幼児心理学」から「乳幼児・児童心理学」(選択2単位)に変更。
- ・授業内容に応じて、授業科目の名称を「青年心理学」から「思春期・青年期心理学」に変更。
- ・科目担当者変更により、開講曜日時限の調整が困難なため、「社会福祉学」の配当年次を2年前期から2年後期に変更。また、専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・他学科との合同開講で、科目名称を統一するため、「高齢者福祉学」を「老人福祉学」に変更。また、専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・科目区分「心理実践実習分野」を「心理実習系」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理実践職能学」から「公認心理師の職責」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、「関係行政論」(必修2単位)を追加、配当年次を4年前期とし、専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理基礎実習」(必修1単位)とし、配当年次を1年後期に変更。また、専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」、「准教授0」から「准教授1」、「講師4」から「講師3」、「兼1」から「兼0」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理実践実習Ⅰ」から「心理実習Ⅰ」とし、配当年次を2年後期、必修3単位から必修1単位に変更。また、専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」、「講師4」から「講師2」に変更。
- ・文部科学省令・厚生労働省令第三号で定める公認心理師となるために必要な科目名称とするため、授業科目の名称を「心理実践実習Ⅱ」から「心理実習Ⅱ」とし、配当年次を3年後期、選択2単位から必修3単位に変更。また、専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」、「講師4」から「講師2」に変更。
- ・総合領域の小計が未表記であったため、小計(9科目)を追加。
- ・授業科目の名称を「臨床心理学総合講義」を「総合実習」とし、配当年次を4年前期から4年後期、必修2単位から選択2単位に変更。また、専任教員等の配置を「教授1」から「教授5」、「講師0」から「講師3」に変更。
- ・科目担当者変更により、「臨床心理学特別講義Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、兼任・兼任を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・授業科目の名称を「特別演習Ⅰ」から「心理特別演習Ⅰ」とし、専任教員等の配置を「教授0」から「教授4」、兼任・兼任を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・授業科目の名称を「特別演習Ⅱ」から「心理特別演習Ⅱ」とし、専任教員等の配置を「教授1」から「教授4」に変更。
- ・教授就任により、「基礎ゼミ」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授7」、講師就任辞退により、「講師5」から「講師4」に変更。
- ・講師就任辞退により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師4」に変更。

【令和元年度】

- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「日本国憲法」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「法学」の科目担当者を変更し、配当年次を1年前期から1年後期に変更。
- ・他学科との合同開講で履修者数が増えることが見込まれるため、開講クラス数を増やし、「社会学」の配当年次を1年後期から1年前・後期に変更。
- ・他学科との合同開講で履修者数が増えることが見込まれるため、開講クラス数を増やし、「日本語学概論」の配当年次を1年前期から1年前・後期に変更。
- ・他学科との合同開講で履修者数が増えることが見込まれるため、開講クラス数を増やし、「ことばと社会」の配当年次を1年後期から1年前・後期に変更。
- ・兼任教員の数に誤りがあったため、以下のとおり修正。
- ・他学部との合同開講で履修者数が増え、またオムニバス形式のため、「地域と大学」の兼任教員を「兼12」から「兼13」に変更。また、専任教員等については、開講曜日時限の調整が困難なため、新たに就任した准教授に担当を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「基礎化学」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「情報処理論」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「英語Ⅱ」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「英語Ⅲ」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「英語Ⅳ」の科目担当者を変更。
- ・開講クラス数を増やし、少人数教育を図るため、「英会話」の担当者を1名追加。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「救急医療」の科目担当者を変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「看護学」の科目担当者を変更。
- ・精神看護学分野の教員を科目担当者として追加し、より専門性の高い教育の充実を図るため、「精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む)」の兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・精神看護学分野の教員を科目担当者として追加し、より専門性の高い教育の充実を図るため、「精神看護学演習(精神科リハビリテーション学を含む)」の兼任・兼任を「兼0」から「兼2」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難により科目担当者を変更し、「心理学的支援法」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・福祉分野の教員を科目担当者として追加し、より専門性の高い教育の充実を図るため、「福祉心理学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。
- ・教育分野の教員を科目担当者として追加し、より専門性の高い教育の充実を図るため、「教育・学校心理学」の兼任・兼任を「兼0」から「兼1」に変更。
- ・社会福祉分野の教員を科目担当者として追加し、より専門性の高い教育の充実を図るため、「社会福祉学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」、兼任・兼任を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「老人福祉学」の科目担当者を変更。
- ・学生数に応じた教員数で実習指導の充実を図るため、「心理基礎実習」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・学生数に応じた教員数で実習指導の充実を図るため、「心理実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授5」、「准教授0」から「准教授2」に変更。また、実習先の状況に応じて配当年次を2年後期から2年前期に変更。
- ・学生数に応じた教員数で教育の充実を図るため、「心理特別演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」、「准教授0」から「准教授2」に変更。

・学生数に応じた教員数で教育の充実を図るため、「心理特別演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授5」、「准教授0」から「准教授2」に変更。

【令和2年度】

- ・他学科との合同開講で履修者数が多く、1年の前期・後期にそれぞれ開講しているが、開講クラスの履修者数の調整を図るため、臨床心理学科においては、「日本国憲法」の配当年次を1年後期から1年前期に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「職業適性論」の科目担当者を変更。
- ・科目担当者の体調不良による兼任辞退、また代替教員の調整がなかなかできなかったため、「日本語学概論」を休講。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「ことばと社会」の科目担当者を変更。
- ・他学部との合同開講で履修者数が多く、またオムニバス形式のため、「地域と大学」の兼任教員を「兼12」から「兼13」に変更。また、専任教員等についても、開講曜日時限の調整が困難なため、担当者を准教授から新たに就任した助教に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「基礎数学」の科目担当者を変更。
- ・科目担当者退職のため、「英語Ⅰ」の科目担当者を変更。
- ・科目担当者退職のため、「医学英語」の科目担当者を変更。
- ・前期に集中開講を予定していたが、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期と重複し、大会ボランティアに参加する学生が生じる可能性があったため、1年前期から1年後期に変更。また、科目担当者退職のため、「救命救助法」の科目担当者を変更。
- ・アクティブラーニングを中心とした学習が主体で、履修者数に応じた教員配置とするため、「心理統計法」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師1」、「助教1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「心理学実験Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。また、グループワーク、アクティブラーニングを中心とした学習が主体で、履修者数に応じた教員配置とするため、「助教2」を追加。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「心理学実験Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。また、グループワーク、アクティブラーニングを中心とした学習が主体で、履修者数に応じた教員配置とするため、「助教2」を追加。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「心理演習」の科目担当者を兼任教員から兼任教員に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「知覚・認知心理学入門」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。また、グループワーク、アクティブラーニングを中心とした学習が主体で、履修者数に応じた教員配置とするため、「助教2」を追加。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「感情・人格心理学」の科目担当者を「講師1」から「兼1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「神経・生理心理学」の専任教員等の配置を「講師1」から「助教1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「社会・集団・家族心理学Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師1」から「教授1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「発達心理学」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・専門性の高い教育の充実を図るため、「障害者・障害児心理学」の専任教員等の配置を「講師1」から「准教授1」、「講師1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「健康・医療心理学」の科目担当者を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・より専門性の高い教育の充実を図るため、「福祉心理学」の専任教員等の配置を「教授1」、「講師2」から「教授1」、「准教授1」、「講師2」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「司法・犯罪心理学」の科目担当者を「講師1」から「兼1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「産業・組織心理学」の科目担当者を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「認知行動療法」の科目担当者を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「思春期・青年期心理学」の科目担当者を「講師1」から「兼1」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、「障害者福祉学」の科目担当者を変更。
- ・学生数に応じた教員数で実習指導の充実を図るため、「心理基礎実習」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」、「助教0」から「助教2」に変更。
- ・開講時期の調整困難のため、「心理実習Ⅰ」の科目担当者を「教授6」から「教授5」、「兼1」から「兼0」に変更。また、学生数に応じた教員数で実習指導の充実を図るため、専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」、「講師3」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
- ・開講時期の調整困難による兼任辞退のため、「心理実習Ⅱ」の科目担当者を変更。また、実習先の状況に応じて配当年次を3年後期から3年前期に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「臨床心理学特別講義Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・学生数に応じた教員数で教育の充実を図るため、「心理特別演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」、「講師3」から「講師4」、「助教0」から「助教2」に変更。
- ・学生数に応じた教員数で教育の充実を図るため、「心理特別演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」、「助教0」から「助教2」に変更。
- ・開講曜日時限の調整困難のため、「基礎ゼミ」の専任教員等の配置を「教授7」から「准教授6」に変更。また、学生数に応じた教員数で教育の充実を図るため、専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授3」、「助教0」から「助教2」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
40 科目	46 科目	0 科目	86 科目	47 科目 [7]	38 科目 [Δ8]	0 科目 [0]	85 科目 [Δ1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	日本語学概論	2	1	一般	選択	科目担当者の体調不良による辞退のため。 なお、今年度は代替措置を行っていないが、次年度開講できるよう担当者の調整を行っている。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「日本語学概論」については、科目担当者の体調不良で開講が困難となり、代替教員の調整がつかなかったため、休講とした。
 なお、上記科目については、授業内容（シラバス）にて学生に周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{86} = \boxed{1.16\%}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 舎 敷 地	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	206,245.91㎡	0.00㎡	0.00㎡	206,245.91㎡				
	運 動 場 用 地	14,570.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	14,570.00㎡				
	小 計	220,815.91㎡	0.00㎡	0.00㎡	220,815.91㎡				
	そ の 他	2,275.17㎡	0.00㎡	0.00㎡	2,275.17㎡				
合 計	223,091.08㎡	0.00㎡	0.00㎡	223,091.08㎡					
(2) 校 舎	専 用	117,073.11㎡	0.00㎡	0.00㎡	117,073.11㎡	大学全体			
	(117,073.11㎡)	(0.00㎡)	(0.00㎡)	(117,073.11㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	82室	82室	62室	6室 (補助職員 0人)	大学全体			
	演 習 室				3室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		9 室			
	保健学部 臨床心理学科								
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共用分を含む 図書、学術雑誌の予測値に ついては、資料受入数に予 測と誤差があったため変 更。(30)また、現在値につ いては、資料受け入れによ り増加したため変更。(30) 図書及び視聴覚資料の現在 値については、資料受け入 れ、除籍により増減したた め変更。(元) 図書及び視聴覚資料の現在 値については、資料受け入 れ、除籍により増減したた め変更。(30) 機械・器具については、備品 総数として記載したため、 教員の数値に変更。(30)ま た、標本については経年劣 化による廃棄のため、減 少。(30) 機械・器具については、昨 年度の報告した数値が、教 具のみで誤っていたため、 教員、備品の数値と合算 して変更。(元)	
	保健学部 臨床心理学科	427,000 [160,000] 416,000 [160,000] (420,576 [157,601]) (416,952 [157,793]) (411,732 [157,546]) (406,263 [157,436])	1,408 [149] 1,481 [157] (1,408 [149]) (1,481 [157])	15,927 [14,519] 8,624 [7,491] 15,927 [14,519] 8,624 [7,491]	13,000 11,000 (10,863) (10,781) (10,958) (10,639)	33,234 15,686 35,449 (33,234) (15,686) (35,449)	448 560 (448) (560)		
	計	427,000 [160,000] 416,000 [160,000] (420,576 [157,601]) (416,952 [157,793]) (411,732 [157,546]) (406,263 [157,436])	1,408 [149] 1,481 [157] (1,408 [149]) (1,481 [157])	15,927 [14,519] 8,624 [7,491] 15,927 [14,519] 8,624 [7,491]	13,000 11,000 (10,863) (10,781) (10,958) (10,639)	33,234 15,686 35,449 (33,234) (15,686) (35,449)	448 560 (448) (560)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	6,730.53㎡	808 807		463,056					
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要			大 学 全 体				
	5148.2㎡	テニスコート			トレーニングルーム				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	届出学科全体
		教員1人当り研究費等	724千円	724千円	図書購入費	203,674千円	219,763千円	334,366千円	
	共同研究費等	53,350千円	53,350千円	設備購入費	300,000千円	30,000千円	300,000千円	図書費には、電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,650千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金収入、手数料収入等を充当する。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称		杏林大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
医学部											
医学科	6	115	—	700	学士 (医学)	1.00	1.00	令和2	昭和45	東京都三鷹市新川六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	令和2年度 入学定員変更(10) ※入学定員10人増は令和2年度から翌令和3年度までとし、それに伴う収容定員の変更の終期は令和9年3月までとする。
保健学部											
臨床検査技術学科	4	120	—	480	学士 (保健衛生学)	1.01	1.03		昭和54	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
健康福祉学科	4	50	—	200	学士 (保健衛生学)	1.05	1.04		昭和54	同上	
看護学科		150			学士 (看護学)	1.01	1.04		平成6		
看護学専攻	4	100	—	400		0.98	1.03		平成24	東京都三鷹市新川六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
看護養護教育学専攻	4	50	—	200		1.07	1.06			東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
臨床工学科	4	60	—	240	学士 (臨床工学)	1.04	1.05		平成18	同上	
救急救命学科	4	50	—	200	学士 (救急救命学)	1.08	1.06		平成19	同上	
理学療法学科	4	56	—	224	学士 (理学療法)	1.05	1.05		平成21	同上	
作業療法学科	4	54	—	216	学士 (作業療法)	1.10	1.03		平成23	同上	
診療放射線技術学科	4	66	—	264	学士 (診療放射線学)	1.02	1.06		平成25	同上	
臨床心理学科	4	80	—	320	学士 (臨床心理学)	0.95	1.07	平成30	平成30	同上	平成30年度 開設、入学定員変更 (80)
総合政策学部											
総合政策学科	4	150	3年次 3	606	学士 (総合政策学)	1.09	1.07	平成30	昭和59	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	平成30年度 入学定員変更(20)
企業経営学科	4	80	3年次 3	326	学士 (企業経営学)	1.10	1.13	平成30	平成18	同上	平成30年度 入学定員変更(10)
外国語学部											
英語学科	4	130	3年次 4	528	学士 (文学)	1.02	1.07		平成18	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
中国語学科	4	30	3年次 5	130	学士 (中国語コミュニケーション学)	1.22	1.06		平成23	同上	
観光交流文化学科	4	90	3年次 3	366	学士 (観光交流文化学)	1.07	1.06		平成22	同上	

大学の名称	杏林大学大学院										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍					
医学研究科	4	34	—	136	博士 (医学)	0.38	0.29		昭和51	東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
保健学研究科											
保健学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (保健学)	1.21	1.57		昭和59	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
看護学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (看護学)	0.21	0.28		平成20	東京都三鷹市新川六丁目20番2号 東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
保健学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (保健学)	0.91	0.50		昭和61	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
看護学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (看護学)	0.33	0.00		平成22	東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
国際協力研究科											
国際開発専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (開発学)	0.25	0.20		平成5	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	
国際文化交流専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (学術)	—	—	平成31	平成5	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	平成31年度 学生募集停止 定員変更(△10)
国際医療協力専攻 (博士前期課程)	2	6	—	12	修士 (国際医療協力)	0.16	0.16		平成16	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号 東京都三鷹市新川六丁目20番2号	
国際言語コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (言語コミュニケーション学)	—	—	平成31	平成21	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	平成31年度 学生募集停止 定員変更(△14)
グローバル・コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	2	24	—	48	修士 (言語コミュニケーション学)	0.24	0.20	平成31	平成31	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	平成31年度 開設、入学定員変更 (24)
開発問題専攻 (博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (学術)	0.33	0.30		平成7	東京都三鷹市下連雀五丁目4番1号	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<保健学部 臨床心理学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	下島 裕美 (48) <平成30年4月> 博士(心理学)	心理学概論 心理学研究法 心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 認知心理学 発達心理学 教育心理学 社会心理学 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	下島 裕美 (48) <平成30年4月> 博士(心理学)	心理学概論 心理学研究法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 学習・言語心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 教育・学校心理学 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	下島 裕美 (49) <平成30年4月> 博士(心理学)	心理学概論 心理学研究法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 学習・言語心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 教育・学校心理学 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	教授	中島 亨 (55) <平成30年4月> 博士(医学)	疾病学 精神医学概論 精神医学名論 緩和医療学(演習を含む) 認知行動療法 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	中島 亨 (55) <平成30年4月> 博士(医学)	人体の構造と機能及び疾病(疾病) 精神疾患とその治療Ⅰ 精神疾患とその治療Ⅱ 緩和医療学(演習を含む) 認知行動療法 心理基礎実習 総合実習 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	中島 亨 (56) <平成30年4月> 博士(医学)	人体の構造と機能及び疾病(疾病) 精神疾患とその治療Ⅰ 精神疾患とその治療Ⅱ 緩和医療学(演習を含む) 認知行動療法 心理基礎実習 総合実習 基礎ゼミ 卒業研究
専任	教授	古川 佳子 (62) <平成30年4月> 修士(人間科学)	心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理検査演習 心理面接演習 発達臨床心理学 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 臨床心理学特別講義Ⅰ 特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	古川 佳子 (62) <平成30年4月> 修士(人間科学)	福祉心理学 社会福祉学 産業・組織心理学 心理基礎実習 総合実習 臨床心理学特別講義Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	古川 佳子 (63) <平成30年4月> 修士(人間科学)	福祉心理学 社会福祉学 産業・組織心理学 心理基礎実習 総合実習 臨床心理学特別講義Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	教授	村部 妙美 (57) <平成30年4月> 修士(社会学)	心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理検査演習 家族心理学 心理検査法 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	村部 妙美 (57) <平成30年4月> 修士(社会学)	心理演習 臨床心理学概論 社会・集団・家族心理学Ⅱ 心理的アセスメント 健康・医療心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究	専任	教授	村部 妙美 (58) <平成30年4月> 修士(社会学)	心理演習 臨床心理学概論 社会・集団・家族心理学Ⅱ 心理的アセスメント 健康・医療心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	教授	山本 寛 (62) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能 人体の機能 病態病理学	専任	教授	山本 寛 (62) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ) 人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ) 病態病理学 基礎ゼミ	専任	教授	山本 寛 (63) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ) 人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ) 病態病理学 基礎ゼミ
専任	教授	山本 寛 (64) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ) 人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ) 病態病理学 基礎ゼミ	専任	教授	山本 寛 (64) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ) 人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ) 病態病理学 基礎ゼミ	専任	教授	山本 寛 (64) <平成30年4月> 博士(保健学)	人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ) 人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ) 病態病理学 基礎ゼミ

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	脇谷 順子 (53) <平成30年4月> Professional Doctorate degree in Child Psychotherapy (イギリス)
		心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理面接演習 乳幼児心理学 心理療法 医療心理学 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 臨床心理学総合講義 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	石川 智 (41) <平成30年4月> 修士(心理学)
		心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理検査演習 心理面接演習 集団心理学 青年心理学 人格心理学 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ インターンシップ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	紅林 佑介 (35) <平成30年4月> 博士(看護学)
		地域と大学 看護学 精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学演習(精神科リハビリテーション学を含む) 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	脇谷 順子 (53) <平成30年4月> Professional Doctorate degree in Child Psychotherapy (イギリス)
		心理演習 発達心理学 心理学的支援法 乳幼児・児童心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	准教授	伊藤 淳子 (53) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		地域と大学 心理基礎実習
専任	講師	石川 智 (41) <平成30年4月> 修士(心理学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 社会・集団・家族心理学Ⅱ 福祉心理学 思春期・青年期心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ インターンシップ 基礎ゼミ 卒業研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	脇谷 順子 (54) <平成30年4月> Professional Doctorate degree in Child Psychotherapy (イギリス)
		心理演習 発達心理学 心理学的支援法 乳幼児・児童心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	准教授	伊藤 淳子 (54) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		心理学的支援法 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ
専任	准教授	中村 美奈子 (54) <平成31年4月> 博士(社会福祉学)
		地域と大学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ
専任	講師	石川 智 (42) <平成30年4月> 修士(心理学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学Ⅰ 社会・集団・家族心理学Ⅱ 福祉心理学 思春期・青年期心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ インターンシップ 基礎ゼミ 卒業研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	脇谷 順子 (55) <平成30年4月> Professional Doctorate degree in Child Psychotherapy (イギリス)
		心理演習 心理学的支援法 乳幼児・児童心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	准教授	伊藤 淳子 (55) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		心理学的支援法 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 臨床心理学特別講義Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ
専任	准教授	北山 純 (45) <令和2年4月> 博士(心理学)
		福祉心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ
専任	准教授	中村 美奈子 (55) <平成31年4月> 博士(社会福祉学)
		障害者・障害児心理学 産業・組織心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ
専任	講師	石川 智 (43) <平成30年4月> 修士(心理学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 社会・集団・家族心理学Ⅰ 社会・集団・家族心理学Ⅱ 福祉心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ インターンシップ 基礎ゼミ 卒業研究

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	櫻井 未央 (39) <平成30年4月> 修士(教育学)
		心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理検査演習 心理面接演習 臨床心理学概論 障害者心理学 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ ボランティア活動 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	島田 正亮 (42) <平成30年4月> 博士(保健学)
		心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 心理検査演習 心理面接演習 学校心理学 カウンセリング 心理実践職能学 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	三浦 大志 (32) <平成30年4月> 博士(心理学)
		心理学統計法 心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ 神経心理学 知覚・認知心理学 生理心理学 基礎ゼミ 卒業研究

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	櫻井 未央 (40) <平成30年4月> 修士(教育学)
		臨床心理学概論 知覚・認知心理学入門 障害者・障害児心理学 司法・犯罪心理学 発達臨床心理学 心理基礎実習 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ ボランティア活動 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	島田 正亮 (42) <平成30年4月> 博士(保健学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 心理学的支援法 教育・学校心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	三浦 大志 (32) <平成30年4月> 博士(心理学)
		心理学統計法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学入門 知覚・認知心理学 神経・生理心理学 基礎ゼミ 卒業研究

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	櫻井 未央 (41) <平成30年4月> 修士(教育学)
		臨床心理学概論 知覚・認知心理学入門 障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学 発達臨床心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ ボランティア活動 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	島田 正亮 (43) <平成30年4月> 博士(保健学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 教育・学校心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	三浦 大志 (33) <平成30年4月> 博士(心理学)
		心理学統計法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学入門 知覚・認知心理学 神経・生理心理学 基礎ゼミ 卒業研究

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	五嶋 亜子 (51) <令和2年4月> 修士(教育学)
		心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ
		櫻井 未央 (42) <平成30年4月> 修士(教育学)
		臨床心理学概論 知覚・認知心理学入門 発達心理学 障害者・障害児心理学 福祉心理学 発達臨床心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ ボランティア活動 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	島田 正亮 (44) <平成30年4月> 博士(保健学)
		心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理演習 知覚・認知心理学入門 教育・学校心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ 総合実習 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
専任	講師	三浦 大志 (34) <平成30年4月> 博士(心理学)
		心理学統計法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学入門 知覚・認知心理学 神経・生理心理学 基礎ゼミ 卒業研究
専任	助教	斎藤 聖子 (32) <令和2年4月> 博士(心理学)
		心理学統計法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学入門 神経・生理心理学 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ
専任	助教	山崎 大翼 (27) <令和2年4月> 修士(臨床心理学)
		地域と大学 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学入門 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	石井 和夫 (64) <平成30年4月> 博士(薬学)
		職業適性論
兼担	教授	大嶺 智子 (60) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論
兼担	教授	岡田 洋二 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎化学
兼担	教授	加藤 誠久 (65) <平成30年4月> 理学修士
		基礎数学
兼担	教授	亀崎 路子 (55) <平成30年4月> 博士(看護学)
		学校教育学
兼担	教授	金田一 秀穂 (64) <平成30年4月> 修士(外国語学)
		日本語学概論 ことばと社会
兼担	教授	下田 信明 (55) <平成30年4月>
		職業適性論
兼担	教授	田中 浩輔 (56) <平成30年4月> 理学博士
		基礎生物学

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	学長	大瀧 純一 (67) <平成30年4月> 博士(医学)
		心理演習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ
兼担	教授	大嶺 智子 (60) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論
兼担	教授	岡田 洋二 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎化学 職業適性論
兼任	講師	加藤 誠久 (65) <平成30年4月> 理学修士
		基礎数学
兼担	教授	亀崎 路子 (55) <平成30年4月> 博士(看護学)
		学校教育学
兼担	教授	金田一 秀穂 (64) <平成30年4月> 修士(外国語学)
		日本語学概論
兼担	教授	田中 浩輔 (56) <平成30年4月> 理学博士
		基礎生物学 職業適性論

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	学長	大瀧 純一 (68) <平成30年4月> 博士(医学)
		心理演習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ
兼担	教授	浅沼 奈美 (55) <平成31年4月> 博士(保健学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学・精神科リハビリテーション学演習
兼担	教授	石井 博之 (51) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		地域と大学
兼担	教授	大嶺 智子 (61) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論
兼担	教授	岡田 洋二 (56) <平成30年4月> 博士(保健学)
		職業適性論
兼任	講師	加藤 誠久 (66) <平成30年4月> 理学修士
		基礎数学
兼担	教授	亀崎 路子 (56) <平成30年4月> 博士(看護学)
		学校教育学
兼担	特任教授	金田一 秀穂 (65) <平成30年4月> 修士(外国語学)
		日本語学概論
兼担	教授	田中 浩輔 (57) <平成30年4月> 理学博士
		基礎生物学 職業適性論
兼担	教授	田中 美千子 (55) <平成31年4月> 修士(カウンセリング学)
		精神看護学・精神科リハビリテーション学演習

【令和2年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	浅沼 奈美 (56) <平成31年4月> 博士(保健学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学・精神科リハビリテーション学演習
兼担	教授	石井 博之 (52) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		地域と大学
兼担	教授	大嶺 智子 (62) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論
兼担	教授	岡田 洋二 (57) <平成30年4月> 博士(保健学)
		職業適性論
兼担	教授	亀崎 路子 (57) <平成30年4月> 博士(看護学)
		学校教育学
兼担	教授	田中 浩輔 (58) <平成30年4月> 理学博士
		基礎生物学
兼担	教授	田中 美千子 (56) <平成31年4月> 修士(カウンセリング学)
		精神看護学・精神科リハビリテーション学演習

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	出嶋 靖志 (57) <平成30年4月> 博士(保健学)	医学概論
兼任 教授	宮澤 博 (61) <平成30年4月> 博士(保健学)	地域と大学
兼任 教授	森田 耕司 (63) <平成30年4月> 医学博士	職業適性論
兼任 教授	八並 光信 (59) <平成30年4月> 博士(リハビリテーション学)	職業適性論
兼任 教授	山田 賢治 (54) <平成30年4月> 博士(医学)	救急医療
兼任 教授	四倉 正之 (63) <平成30年4月> 医学博士	職業適性論 地域と大学
兼任 特任教授	千田 晋治 (63) <平成30年4月> 法学士	救命救助法
兼任 特任教授	張替 克美 (63) <平成31年4月> 教育学修士	教育・学校心理学
兼任 特任教授	平石 富男 (64) <平成30年4月> 法学士	職業適性論
兼任 准教授	朝野 聡 (59) <平成30年4月> 体育学修士	地域と大学

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	出嶋 靖志 (57) <平成30年4月> 博士(保健学)	医学概論 公衆衛生学
兼任 教授	照屋 浩司 (59) <平成30年4月> 医学博士	公衆衛生学
兼任 教授	松尾 ひとみ (62) <平成30年4月> 博士(看護学)	看護学
兼任 教授	森田 耕司 (63) <平成30年4月> 医学博士	職業適性論
兼任 教授	八並 光信 (59) <平成30年4月> 博士(リハビリテーション学)	職業適性論
兼任 教授	山田 賢治 (54) <平成30年4月> 博士(医学)	救急医療
兼任 特任教授	千田 晋治 (63) <平成30年4月> 法学士	救命救助法
兼任 特任教授	平石 富男 (64) <平成30年4月> 法学士	職業適性論
兼任 准教授	朝野 聡 (59) <平成30年4月> 体育学修士	地域と大学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	出嶋 靖志 (58) <平成30年4月> 博士(保健学)	医学概論 公衆衛生学
兼任 教授	照屋 浩司 (60) <平成30年4月> 医学博士	公衆衛生学
兼任 教授	森田 耕司 (64) <平成30年4月> 医学博士	職業適性論
兼任 教授	八並 光信 (60) <平成30年4月> 博士(リハビリテーション学)	職業適性論
兼任 特任教授	千田 晋治 (64) <平成30年4月> 法学士	救命救助法
兼任 特任教授	張替 克美 (63) <平成31年4月> 教育学修士	教育・学校心理学
兼任 特任教授	平石 富男 (65) <平成30年4月> 法学士	職業適性論
兼任 准教授	朝野 聡 (60) <平成30年4月> 体育学修士	地域と大学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	出嶋 靖志 (59) <平成30年4月> 博士(保健学)	医学概論 公衆衛生学 医学英語
兼任 教授	照屋 浩司 (61) <平成30年4月> 医学博士	公衆衛生学
兼任 教授	八並 光信 (61) <平成30年4月> 博士(リハビリテーション学)	職業適性論
兼任 特任教授	張替 克美 (64) <平成31年4月> 教育学修士	教育・学校心理学
兼任 特任教授	平石 富男 (66) <平成30年4月> 法学士	職業適性論
兼任 特任教授	宮野 収 (60) <令和2年4月> 経済学修士	救命救助法
兼任 准教授	朝野 聡 (61) <平成30年4月> 体育学修士	地域と大学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 准教授		岩隈 道洋 (43) <平成30年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任 准教授		岡村 裕 (52) <平成30年4月> 博士(保健学)
		社会福祉政策学
兼任 准教授		岡本 博照 (50) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論 公衆衛生学 高齢保健学
兼任 准教授		片桐 朝美 (46) <平成30年4月> 博士(医学)
		社会福祉学 高齢者福祉学
兼任 准教授		竹田 里江 (42) <平成30年4月> 博士(作業療法学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学演習(精神科リハビリテーション学を含む) 心理実践基礎実習Ⅰ 心理実践基礎実習Ⅱ 心理実践実習Ⅰ 心理実践実習Ⅱ 臨床心理学特別講義Ⅱ 特別演習Ⅰ
兼任 准教授		戸塚 恵子 (50) <平成30年4月> 博士(医療福祉学)
		児童福祉学

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 准教授		岡村 裕 (52) <平成30年4月> 博士(保健学)
		社会福祉政策学
兼任 准教授		岡本 博照 (50) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論 公衆衛生学 高齢保健学
兼任 准教授		片桐 朝美 (46) <平成30年4月> 博士(医学)
		社会福祉学 老人福祉学
兼任 准教授		佐々木 裕子 (55) <平成30年4月> 博士(看護学)
		生命倫理学 地域と大学
兼任 准教授		角田 ますみ (50) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		生命倫理学 地域と大学
専任 教授		竹田 里江 (42) <平成30年4月> 博士(作業療法学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学・精神科リハビリテーション学演習 心理基礎実習 総合実習 臨床心理学特別講義Ⅱ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
兼任 准教授		戸塚 恵子 (50) <平成30年4月> 博士(医療福祉学)
		児童福祉学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		岡村 裕 (53) <平成30年4月> 博士(保健学)
		社会福祉政策学 職業適性論
兼任 准教授		岡本 博照 (51) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論 公衆衛生学 高齢保健学
兼任 准教授		片桐 朝美 (47) <平成30年4月> 博士(医学)
		社会福祉学
兼任 准教授		佐々木 裕子 (56) <平成30年4月> 博士(看護学)
		生命倫理学
兼任 准教授		角田 ますみ (51) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		生命倫理学
兼任 准教授		高津 博勝 (42) <平成31年4月> 博士(工学)
		基礎化学
専任 教授		竹田 里江 (43) <平成30年4月> 博士(作業療法学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学・精神科リハビリテーション学演習 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 総合実習 臨床心理学特別講義Ⅱ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
兼任 准教授		田中 薫 (56) <平成31年4月> 博士(保健学)
		情報処理論
兼任 准教授		戸塚 恵子 (51) <平成30年4月> 博士(医療福祉学)
		児童福祉学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授		岡村 裕 (54) <平成30年4月> 博士(保健学)
		社会福祉政策学 職業適性論
兼任 准教授		岡本 博照 (52) <平成30年4月> 博士(医学)
		職業適性論 公衆衛生学 高齢保健学
兼任 准教授		片桐 朝美 (48) <平成30年4月> 博士(医学)
		社会福祉学
兼任 准教授		藤田 訓 (53) <令和2年4月> 博士(医学)
		職業適性論
兼任 准教授		佐々木 裕子 (57) <平成30年4月> 博士(看護学)
		生命倫理学
兼任 准教授		角田 ますみ (52) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		生命倫理学
兼任 准教授		高津 博勝 (43) <平成31年4月> 博士(工学)
		基礎化学
専任 教授		竹田 里江 (44) <平成30年4月> 博士(作業療法学)
		精神看護学(精神科リハビリテーション学を含む) 精神看護学・精神科リハビリテーション学演習 心理基礎実習 心理実習Ⅰ 総合実習 臨床心理学特別講義Ⅱ 心理特別演習Ⅰ 心理特別演習Ⅱ 基礎ゼミ 卒業研究
兼任 准教授		田中 薫 (57) <平成31年4月> 博士(保健学)
		情報処理論
兼任 准教授		戸塚 恵子 (52) <平成30年4月> 博士(医療福祉学)
		児童福祉学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	助教	井上 敦 (33) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		障害者福祉学
兼任	助教	久米 梢子 (29) <平成30年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	齋藤 利恵 (38) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	鈴木 朋子 (36) <平成30年4月> 修士(看護学)
		地域と大学

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	門馬 博 (37) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	講師	渡辺 恵 (46) <平成30年4月> 修士(教育学)
		社会学
兼任	助教	井上 敦 (33) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		障害者福祉学
兼任	助教	菊田 雅宏 (28) <平成30年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	上崎 梢子 (29) <平成30年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	鈴木 朋子 (36) <平成30年4月> 修士(看護学)
		地域と大学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	森 敦美 (55) <平成31年4月> 学士(医学)
		救急医療
兼任	講師	門馬 博 (38) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	講師	渡辺 恵 (47) <平成30年4月> 修士(教育学)
		地域と大学 社会学
兼任	助教	井上 敦 (34) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		障害者福祉学 社会福祉学
兼任	助教	遠藤 祐太 (24) <平成31年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	太田 淳子 (47) <平成31年4月> 修士(老年学)
		地域と大学
兼任	助教	木暮 英輝 (31) <平成31年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	齋藤 利恵 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	竹林 令子 (43) <平成31年4月> 学士(看護学)
		地域と大学

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	森 敦美 (56) <平成31年4月> 学士(医学)
		救急医療
兼任	講師	門馬 博 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	講師	渡辺 恵 (48) <平成30年4月> 修士(教育学)
		社会学
兼任	助教	井上 敦 (35) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉学
兼任	助教	遠藤 祐太 (25) <平成31年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	上崎 梢子 (31) <平成30年4月> 修士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	齋藤 利恵 (40) <平成30年4月> 博士(保健学)
		地域と大学
兼任	助教	鈴木 哲治 (40) <令和2年4月> 修士(工学)
		地域と大学
兼任	助教	竹林 令子 (44) <平成31年4月> 学士(看護学)
		地域と大学

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ジェームス ドナルド ホルドウィン (52) <平成30年4月> Bachelor of Arts (おひ)
		英会話
兼任	講師	田中 伊式 (63) <平成30年4月> 文学士
		日本語表現法
兼任	講師	本多 千恵 (59) <平成30年4月> 修士(社会学)
		社会学
兼任	講師	宮崎 則行 (69) <平成30年4月> 文学士
		職業適性論
兼任	講師	吉江 秀和 (41) <平成30年4月> 修士(文学)
		芸術
兼任	講師	米村 美奈 (51) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		医療福祉学
兼任	講師	和田 望 (37) <平成30年4月> 修士(英語教授法)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ジェームス ドナルド ホルドウィン (53) <平成30年4月> Bachelor of Arts (おひ)
		英会話
兼任	講師	田中 伊式 (63) <平成30年4月> 文学士
		日本語表現法
兼任	講師	吉江 秀和 (41) <平成30年4月> 修士(文学)
		芸術
兼任	講師	米村 美奈 (51) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		医療福祉学
兼任	講師	和田 望 (37) <平成30年4月> 修士(英語教授法)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ジェームス ドナルド ホルドウィン (54) <平成30年4月> Bachelor of Arts (おひ)
		英会話
兼任	講師	田中 伊式 (65) <平成30年4月> 修士(日本語教育学)
		日本語表現法
兼任	講師	廣田 尚美 (49) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	吉江 秀和 (42) <平成30年4月> 修士(文学)
		芸術
兼任	講師	米村 美奈 (52) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		医療福祉学
兼任	講師	和田 望 (38) <平成30年4月> 修士(英語教授法)
		英語Ⅱ

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ジェームス ドナルド ホルドウィン (55) <平成30年4月> Bachelor of Arts (おひ)
		英会話
兼任	講師	鈴木 孝信 (40) <令和2年4月> Master of science (7おひ)
		感情・人格心理学
兼任	講師	田中 伊式 (66) <平成30年4月> 修士(日本語教育学)
		日本語表現法
兼任	講師	廣田 尚美 (50) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	三浦 優子 (65) <令和2年4月> 博士(社会学)
		英語Ⅰ
兼任	講師	吉江 秀和 (43) <平成30年4月> 修士(文学)
		芸術
兼任	講師	米村 美奈 (53) <平成30年4月> 修士(社会福祉学)
		医療福祉学
兼任	講師	和田 望 (39) <平成30年4月> 修士(英語教授法)
		英語Ⅱ
兼任	講師	渡辺 由希 (37) <令和2年4月> 博士(社会福祉学)
		心理演習 司法・犯罪心理学 心理実習Ⅱ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み))、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

下島 裕美	担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅰ」から「心理学実験Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅱ」から「心理学実験Ⅱ」に変更。 担当授業科目に「心理演習」を追加。 担当授業科目の名称を「認知心理学」から「知覚・認知心理学入門」に変更。 担当授業科目に「学習・言語心理学」を追加。 担当授業科目の名称を「社会心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「教育心理学」から「教育・学校心理学」に変更。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅱ」を追加。
中島 亨	担当授業科目の名称を「疾病学」から「人体の構造と機能及び疾病(疾病)」に変更。 担当授業科目の名称を「精神医学概論」から「精神疾患とその治療Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「精神医学各論」から「精神疾患とその治療Ⅱ」に変更。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目に「総合実習」を追加。
古川 佳子	担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅱ」を削除。 担当授業科目から「心理検査演習」、「心理面接演習」を削除。 担当授業科目に「福祉心理学」を追加。 担当授業科目に「産業・組織心理学」を追加。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目から「心理実践実習Ⅰ」を削除 担当授業科目から「心理実践実習Ⅱ」を削除 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅱ」から「心理特別演習Ⅱ」に変更。
村部 妙美	担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅱ」を削除。 担当授業科目に「心理演習」を追加。 担当授業科目に「臨床心理学概論」を追加。 担当授業科目の名称を「家族心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅱ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理検査法」から「心理的アセスメント」に変更。 担当授業科目に「健康・医療心理学」を追加。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅰ」から「心理実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅱ」から「心理実習Ⅱ」に変更。 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。
山本 寛	担当授業科目の名称を「人体の構造」から「人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅰ)」に変更。 担当授業科目の名称を「人体の機能」から「人体の構造と機能及び疾病(人体の構造と機能Ⅱ)」に変更。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。
脇谷 順子	担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅱ」を削除。 担当授業科目の名称を「心理面接演習」から「心理演習」に変更。 担当授業科目に「発達心理学」を追加。 担当授業科目の名称を「心理療法」から「心理学的支援法」に変更。 担当授業科目の名称を「乳幼児心理学」から「乳幼児・児童心理学」に変更。 担当授業科目から「医療心理学」を削除。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅰ」から「心理実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅱ」から「心理実習Ⅱ」に変更。 担当授業科目の名称を「臨床心理学総合講義」から「総合実習」に変更。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。
三浦 大志	担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅰ」から「心理学実験Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅱ」から「心理学実験Ⅱ」に変更。 担当授業科目の名称を「知覚心理学」から「知覚・認知心理学入門」、「知覚・認知心理学」に変更。 「神経心理学」、「生理心理学」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「神経・生理心理学」に変更。
島田 正亮	担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅰ」から「心理学実験Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅱ」から「心理学実験Ⅱ」に変更。 「心理検査演習」、「心理面接演習」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理演習」に変更。 担当授業科目に「知覚・認知心理学入門」を追加。 担当授業科目の名称を「カウンセリング」から「心理学的支援法」に変更。 担当授業科目の名称を「学校心理学」から「教育・学校心理学」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践職能学」から「公認心理師の職責」に変更。 担当授業科目に「関係性論」を追加。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅰ」から「心理実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅱ」から「心理実習Ⅱ」に変更。 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅰ」から「心理特別実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅱ」から「心理特別実習Ⅱ」に変更。
石川 智	担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅰ」から「心理学実験Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理学基礎実験Ⅱ」から「心理学実験Ⅱ」に変更。 「心理検査演習」、「心理面接演習」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理演習」に変更。 担当授業科目に「知覚・認知心理学入門」を追加。 担当授業科目の名称を「人格心理学」から「感情・人格心理学」に変更。 担当授業科目に「福祉心理学」を追加。 担当授業科目の名称を「集団心理学」から「社会・集団・家族心理学Ⅰ」、「社会・集団・家族心理学Ⅱ」に変更。 担当授業科目の名称を「青年心理学」から「思春期・青年期心理学」に変更。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅰ」から「心理実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「心理実践実習Ⅱ」から「心理実習Ⅱ」に変更。 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅰ」から「心理特別演習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅱ」から「心理特別演習Ⅱ」に変更。
紅林 佑介	一身上の都合により、講師就任辞退。
大瀧 純一	紅林 佑介就任辞退のため、平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「心理演習」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅱ」を追加。

伊藤 淳子	紅林 佑介就任辞退のため、平成30年4月に准教授就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。 担当授業科目に「心理基礎実習」を追加。
松尾 ひとみ	紅林 佑介就任辞退のため、平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「看護学」を追加。
櫻井 未央	担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理学基礎実験Ⅱ」を削除。 担当授業科目から「心理検査演習」、「心理面接演習」を削除。 担当授業科目に「知覚・認知心理学入門」を追加。 担当授業科目の名称を「障害者心理学」から「障害者・障害児心理学」に変更。 担当授業科目に「司法・犯罪心理学」を追加。 担当授業科目に「発達臨床心理学」を追加。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目から「心理実践実習Ⅰ」を削除 担当授業科目から「心理実践実習Ⅱ」を削除 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅰ」から「心理特別実習Ⅰ」に変更。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅱ」から「心理特別実習Ⅱ」に変更。
石井 和夫	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「職業適性論」を削除。
岡田 洋二	担当授業科目に「職業適性論」を追加。
金田一 秀穂	開講曜日時限の調整困難のため、「ことばと社会」を削除。
清末 逸子	金田一 秀穂の担当授業科目の調整困難のため、平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「ことばと社会」を追加。
下田 信明	退職のため、「職業適性論」を削除。
竹田 里江	届出時の職名の誤りにより、「教授」から「准教授」に変更。 平成30年4月に教授就任。 担当授業科目の名称を「精神看護学演習（精神科リハビリテーション学を含む）」から「精神看護学・精神科リハビリテーション学演習」に変更。 「心理実践基礎実習Ⅰ」、「心理実践基礎実習Ⅱ」の授業内容を統合し、担当授業科目の名称を「心理基礎実習」に変更。 担当授業科目から「心理実践実習Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理実践実習Ⅱ」を削除。 担当授業科目に「総合実習」を追加。 担当授業科目の名称を「特別演習Ⅰ」から「心理特別演習Ⅰ」に変更。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。 担当授業科目に「卒業研究」を追加。
田中 浩輔	担当授業科目に「職業適性論」を追加。
出嶋 靖志	担当授業科目に「公衆衛生学」を追加。
照屋 浩司	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「公衆衛生学」を追加。
宮澤 博	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
出嶋 優華	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
四倉 正之	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「職業適性論」、「地域と大学」を削除。
須田 健二	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「職業適性論」を追加。
菊田 雅宏	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
門馬 博	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
東宮 繁人	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
岩隈 道洋	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「日本国憲法」を削除。
大西 健司	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「日本国憲法」を追加。 担当授業科目に「法学」を追加。
片桐 朝美	担当授業科目の名称を「高齢者福祉学」から「老人福祉学」に変更。
加藤 誠久	届出時の職名の誤りにより、「准教授」から「講師」に変更。 定年退職により、兼任から兼任に変更。
久米 梢子	結婚による改姓のため、氏名を「久米 梢子」から「上崎 梢子」に変更。
北田 真理	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「法学」を削除。
齋藤 利恵	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
岩崎 也生子	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
谷口 綾	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
百々 典子	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
大石 学	開講曜日時限の調整困難のため、「生命倫理学」を削除。
角田 ますみ	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「生命倫理学」を追加。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
佐々木 裕子	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「生命倫理学」を追加。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
寺島 涼子	平成30年4月に兼任就任。 担当授業科目に「生命倫理学」を追加。

- ・本多 千恵 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「社会学」を削除。
- ・渡辺 恵 平成30年4月に兼任就任。
担当授業科目に「社会学」を追加。
- ・宮崎 則行 定年退職により、「職業適性論」を削除。
- ・平石 富男 平成30年4月に兼任兼担就任。
担当授業科目に「職業適性論」を追加。

【令和元年度】

- ・古川 佳子 担当授業科目に「社会福祉学」を追加。
担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。
- ・伊藤 淳子 開講曜日時限の調整困難のため、「地域と大学」を削除。
担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。
担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。
担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。
担当授業科目に「心理学的支援法」を追加。
- ・中村 美奈子 平成31年4月に准教授就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。
担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。
担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。
担当授業科目に「心理基礎実習」を追加。
- ・櫻井 未央 担当授業科目から「福祉心理学」を追加。
担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。
- ・浅沼 奈美 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「精神看護学（精神科リハビリテーション学を含む）」を追加。
担当授業科目に「精神看護学・精神科リハビリテーション学演習」を追加。
- ・石井 博之 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・岡田 洋二 開講曜日時限の調整困難のため、「基礎化学」を削除。
- ・松尾 ひとみ 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「看護学」を削除。
- ・山田 賢治 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「救急医療」を削除。
- ・田中 美千子 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「精神看護学・精神科リハビリテーション学演習」を追加。
- ・張替 克美 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「教育・学校心理学」を追加。
- ・岡村 裕 担当授業科目に「職業適性論」を追加。
- ・片桐 朝美 開講曜日時限の調整困難のため、「老人福祉学」を削除。
- ・佐々木 裕子 開講曜日時限の調整困難のため、「地域と大学」を削除。
- ・柴田 滋子 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・角田 ますみ 開講曜日時限の調整困難のため、「地域と大学」を削除。
- ・高津 博勝 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「基礎化学」を追加。
- ・竹田 里江 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。
- ・田中 薫 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「情報処理論」を追加。
- ・赤嶺 恵理 担当授業科目に「児童福祉学」を追加。
- ・岩崎 也生子 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
- ・大西 健司 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「日本国憲法」、「法学」を削除。
- ・尾崎 愛美 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「日本国憲法」、「法学」を追加。
- ・関 健介 開講曜日時限の調整困難のため、「情報処理論」を削除。
- ・ダシヤカ シヴァスリアム 開講曜日時限の調整困難のため、「英語Ⅱ」を削除。
- ・森 数美 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「救急医療」を追加。
- ・渡辺 恵 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・井上 敦 担当授業科目に「社会福祉学」を追加。
- ・遠藤 祐太 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・太田 淳子 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・菊田 雅宏 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地位地域と大学」を削除。
- ・木暮 英輝 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・齋藤 利恵 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
- ・鈴木 朋子 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地位地域と大学」を削除。
- ・竹林 令子 平成31年4月に兼任就任。
担当授業科目に「地域と大学」を追加。

・只野 喜一	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地位地域と大学」を削除。
・百々 典子	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地位地域と大学」を削除。
・布田 和恵	平成31年4月に兼任就任。 担当授業科目に「看護学」を追加。 担当授業科目に「老人福祉学」を追加。
・エリック ユージン トラウトマン	平成31年4月に兼任就任。 担当授業科目に「英会話」を追加。
・廣田 尚美	平成31年4月に兼任就任。 担当授業科目に「英語Ⅲ」を追加。 担当授業科目に「英語Ⅳ」を追加。
・和田 望	担当授業科目に「英語Ⅱ」を追加。 担当授業科目から「英語Ⅲ」を削除。 担当授業科目から「英語Ⅳ」を削除。

【令和2年度】

・下島 裕美	担当授業科目から「心理学実験Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「心理学実験Ⅱ」を削除。 担当授業科目から「知覚・認知心理学入門」を削除。 担当授業科目から「心理実習Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「基礎ゼミ」を削除。
・中島 亨	担当授業科目から「認知行動療法」を削除。
・古川 佳子	担当授業科目から「産業・組織心理学」を削除。 担当授業科目から「臨床心理学特別講義Ⅰ」を削除。
・村部 妙美	担当授業科目から「健康・医療心理学」を削除。
・脇谷 順子	担当授業科目から「発達心理学」を削除。
・伊藤 淳子	担当授業科目に「臨床心理学特別講義Ⅰ」を追加。
・北山 純	令和2年4月に准教授就任。 担当授業科目に「福祉心理学」を追加。 担当授業科目に「心理基礎実習」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。
・中村 美奈子	担当授業科目から「地域と大学」を削除。 担当授業科目に「障害者・障害児心理学」を追加。 担当授業科目に「産業・組織心理学」を追加。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。
・石川 智	担当授業科目から「感情・人格心理学」を削除。 担当授業科目から「社会・集団・家族心理学Ⅰ」を削除。 担当授業科目から「思春期・青年期心理学」を削除。
・五嶋 亜子	平成31年4月に講師就任。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。
・櫻井 未央	担当授業科目に「発達心理学」を追加。 担当授業科目から「司法・犯罪心理学」を削除。
・三浦 大志	担当授業科目から「神経・生理心理学」を削除。
・齋藤 聖子	令和2年4月に助教就任。 担当授業科目に「心理学統計法」を追加。 担当授業科目に「心理学実験Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理学実験Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「知覚・認知心理学入門」を追加。 担当授業科目に「神経・生理心理学」を追加。 担当授業科目に「心理基礎実習」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。
・山崎 大翼	令和2年4月に助教就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。 担当授業科目に「心理学実験Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理学実験Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「知覚・認知心理学入門」を追加。 担当授業科目に「心理基礎実習」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅰ」を追加。 担当授業科目に「心理特別演習Ⅱ」を追加。 担当授業科目に「基礎ゼミ」を追加。
・大瀧 純一	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「心理演習」を削除。 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「心理実習Ⅰ」を削除。 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「心理実習Ⅱ」を削除。
・加藤 誠久	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「基礎数学」を削除。
・金田一 秀穂	科目担当者の体調不良による兼任辞退により、「日本語学概論」を削除。
・田中 浩輔	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「職業適性論」を削除。
・出嶋 靖志	担当授業科目に「医学英語」を追加。
・森田 耕司	定年退職により、「職業適性論」を削除。
・千田 晋治	定年退職により、「救命救助法」を削除。
・宮野 収	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「救命救助法」を追加。
・藏田 訓	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「職業適性論」を追加。

吉田 清隆	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「基礎数学」を追加。
石黒 千尋	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
ダシヤカ シヴァスリアム	退職のため、「英語Ⅰ」を削除。 退職のため、「医学英語」を削除。
渡辺 恵	開講曜日時限の調整困難のため、「地域と大学」を削除。
井上 敦	開講曜日時限の調整困難のため、「障害者福祉学」を削除。
太田 淳子	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
木暮 英輝	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「地域と大学」を削除。
鈴木 哲治	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
津田 美智子	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
布田 和恵	担当授業科目に「障害者福祉学」を追加。
山内 亮子	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「地域と大学」を追加。
大石 有香	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「ことばと社会」を追加。
加藤 澄江	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「健康・医療心理学」を追加。 担当授業科目に「認知行動療法」を追加。 担当授業科目に「思春期・青年期心理学」を追加。
清末 逸子	開講曜日時限の調整困難による兼任辞退により、「ことばと社会」を削除。
鈴木 孝信	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「感情・人格心理学」を追加。
三浦 優子	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「英語Ⅰ」を追加。
渡辺 由希	令和2年4月に兼任就任。 担当授業科目に「心理演習」を追加。 担当授業科目に「司法・犯罪心理学」を追加。 担当授業科目に「心理実習Ⅱ」を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
6	0	5	0	11	0	7	3	5	2	17	0
(6)	(0)	(5)	(0)	(11)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
7	3	5	2	17	0	7	3	5	2	17	0
[1]	[3]	[0]	[2]	[6]	[0]	[1]	[3]	[0]	[2]	[6]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
教授 65 教授以外 63 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{11} = \boxed{154.54} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{17} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	紅林 佑介		必修	地域と大学	①	一身上の都合により、就任辞退（30）						
				選択	看護学	②							
				必修	精神看護学・精神科リハビリテーション学演習	①							
				必修	心理基礎実習	①							
				必修	心理実習Ⅰ	②							
				必修	心理実習Ⅱ	②							
				必修	基礎ゼミ	①							
				必修	卒業研究	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	7	科目	必修	5	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	5	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1		該当なし											
2													
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	7	科目	必修	5	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	5	科目	計	3	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{11} = \boxed{9.09} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
2							
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>紅林佑介講師退職に伴う教員交代については、以下のとおりである。</p> <p>「地域と大学」伊藤淳子(准教授)：他学部と合同開講で、講義はオムニバス形式でグループワークを中心に行う科目であるため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知した。</p> <p>「看護学」松尾ひとみ(兼任)：本学部看護学科看護養護教育学専攻の教授で、講義内容等に関しては十分熟知しており、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知した。</p> <p>「精神看護学・精神科リハビリテーション学演習」中島亨(教授)：精神科医でもあり、当該分野に関しては十分熟知しており、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知した。</p> <p>「心理基礎実習」伊藤淳子(准教授)：見学が中心の内容で、臨床心理学科の複数の教員で担当しており、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知した。</p> <p>「心理実習Ⅰ」：大瀧 純一(学長)：平成30年5月1日現在で、6名の教員で担当予定である。また、精神科医でもあり、当該分野に関しては十分熟知しており、教員交代に伴う実習及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知する予定であるが、配当年次が2年後期であるため、現時点で周知するには至っていない。</p> <p>「心理実習Ⅱ」：大瀧 純一(学長)：平成30年5月1日現在で、6名の教員で担当予定である。また、精神科医でもあり、当該分野に関しては十分熟知しており、教員交代に伴う実習及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知する予定であるが、配当年次が3年後期であるため、現時点で周知するには至っていない。</p> <p>「基礎ゼミ」中島亨(教授)：他の学科教員と分担して行う科目であるため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知する予定であるが、配当年次が3年後期であるため、現時点で周知するには至っていない。</p> <p>「卒業研究」中島亨(教授)：他の学科教員と分担して行う科目であるため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。 なお、学生には履修案内にて周知する予定であるが、配当年次が3年後期であるため、現時点で周知するには至っていない。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
設 置 時 (平成29年6月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年5月)	入学定員未充足の改善 に努めること。	指摘事項 (改善) 平成31年については、96名 入学しており、80名の入学 定員を充足している。	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年5月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和 2年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健学部 臨床心理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

常置委員会の中に運営委員会を設置し、その中でFD委員会を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

運営委員会は、毎月1回開催し、学部長、教務部長、学生部長、その他の委員（教員）11名で構成している。

c 委員会の審議事項等

制度に関する事項、学部運営に関する事項、予算に関する事項、将来構想に関する事項、FDに関する事項、について審議している。

② 実施状況

a 実施内容

①学生の授業評価を考える研究会

②教員評価

b 実施方法

①学内において授業評価についての研究会を実施している。

②評価シート様式を作成し、その様式に基づき各教員が自己評価を行い、評価結果を提出させ、評価委員による面接を実施している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①講演は、年に数回実施しており、非常勤講師も含めて、多数の教員が参加している。

②年1回、全教員が自己評価を行い、評価委員の面接を受けている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員へフィードバックする授業評価アンケート結果や、講演会などで得た知見をもとに、各教員が自ら授業改善策を検討し、実際の授業で実践している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期（7月）と後期（1月）に原則として全授業で実施している。

- b 教員や学生への公開状況、方法等
アンケート結果については、ホームページにより公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況
該当なし
- b 委員会の開催状況(回数や開催日など)
該当なし
- c 委員会の審議事項等
該当なし
- d その他
該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容
該当なし
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
該当なし
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況
該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

臨床心理学科は、心と身体についての専門知識、心理的援助のための技能、及び高い倫理観を持ち、質の高いコミュニケーションを通じて、医療、保健、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働分野で、心理的な援助を必要とする人々のQOLの維持・向上に貢献できる人材を養成することを目的としている。

また、心の健康の保持増進に寄与する者として必要な基本的知識及び技術を修得し、多角的な視野とライフステージに対応した良好な対人関係を築くことができる技術を身に付け、グローバル社会に向けて、様々な状況下において適切な心理的支援を行うことができる学生教育を積極的に行っていく予定である。

開講科目については、基礎心理学・臨床心理学における幅広い専門的知識を修得するために、基礎知識だけでなく、各教員の臨床経験から得た応用知識も積極的に教授し、その知識と実務が結びつくような学科の特色を生かした講義・実習・演習科目の内容としている。

学生に対しては、主体的な問題解決能力、コミュニケーション能力及びチーム医療へ貢献する能力を身につけるために、少人数のグループワーク、学生によるプレゼンテーションなどを積極的に導入する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 2020年4月1日公表

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 2022年度に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 公表後3ヶ月以降]

- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。